（個 人）　　（報 告　　田　中）

山（山域・ルート）　**八経ヶ岳（大峰山系）、大台ケ原山**

【日時】２３年１０月２６日（水）、２７日（木）

【メンバー】

田 中　　（計　１　名）

①八経ヶ岳（標高１，９１５ｍ）

行者還トンネル西口登山口 → 弥山 → 八経ヶ岳 → 弥山 → 登山口

②大台ケ原（標高１，６９５ｍ）

大台ケ原Ｐ → 日出ヶ岳 → 大蛇嵜 → シオカラ谷 → 大台ケ原Ｐ

【行動記録】

２５日　大宮９時（クルマ）⇒（中央道・名神･近畿道・３０９号）⇒洞川

２６日　洞川（６時２４分）⇒行者還トンネル（８時１１分）⇒弥山（１２時４５分）⇒八経ヶ岳（１２時）⇒行者還トンネル（１５時２０分）

２７日　洞川⇒大台ケ原Ｐ（９時）⇒日出ヶ岳（９時４３分）⇒大蛇嵜（１０時５６分）⇒大台ケ原Ｐ（１２時２０分）

１日目（八経ヶ岳）　６時間３６分　　２日目（大台ケ原）　２時間５３分

【装備・食料等】

携帯電話、ヘッドランプ、雨具、コンパス、地図、救急薬、ツエルト

水、食事（昼食）、行動食

【感想】

今回の山は遠方の知らない土地にあるため、インターネットや地図で下調べをして臨んだもののミスは避けられなかった。９月初めの台風１２号による豪雨の影響は大きく、復旧が大幅に遅れていた。通行止めの区間を勘違いして、登山口に近い場所に宿を取ったつもりが、逆に遠回りをすることになってしまった。前日に泊まった宿の主人がいろいろ調べてくれて、無事２座を登ることができた。

天気はよく晴れていたが、行者還トンネルの登山口に着くと、地図も広げられないほど風が強かった。稜線に出て、大峰奥駆道を弥山まで行く。やがて周囲は樹氷に包まれ、風に振り解かれた氷の細かい欠片が無数に頭に落ちてくる。八経ヶ岳までは弥山からすぐで、それまでガスに覆われていた山頂も強風に煽られ、周囲の山々と共に青空の中に浮かび上がってきた。大台ケ原は、昭和３８年の台風の影響で、苔むした樹林が枯れ木の山と化し、鹿の食害もあり、自然は常に変化している。しかし、自然保護を謳っている人間を動植物はどう思っているのだろうか。